

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したの送付します。

令和8年度病虫害発生予報第2号

令和8年4月28日  
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	苗立枯れ(もみ枯細菌病による苗腐敗)	—	<b>やや多</b>	モモ	ナシヒメシクイ	<b>早</b>	<b>やや多</b>
	ヒメトビウンカ	—	やや少	ブドウ	灰色かび病 べと病	<b>やや早</b> <b>やや早</b>	並 並
	縞葉枯病	—	やや少				
	ツマグロヨコバイ	—	並	キュウリ等	灰色かび病	—	<b>やや多</b>
	萎縮病	—	並				
イネミズゾウムシ	<b>やや早</b>	並					
麦類	アブラムシ類	—	やや少	イチゴ	うどんこ病	—	少
	ヤノハモグリバエ	—	やや少	タマネギ	べと病	—	少
ジャガイモ	疫病	並	並	ナス等	ミナミキイロアザミウマ	—	並
モモ	灰星病	—	やや少	アブラナ科 野菜	アブラムシ類 コナガ	並 並	並 並
	黒星病	<b>やや早</b>	並				
	せん孔細菌病	—	やや少	キク	アブラムシ類	—	並
	褐さび病	<b>やや早</b>	並				
モモハモグリガ	—	並					
ウメシロカイガラムシ	—	並					



ア. 被害はオオムギで多く、コムギで少ない。多発地帯では水田裏作とするか、コムギに転換する。

### (ジャガイモ)

#### (1) 疫病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. ジャガイモの生育は平年並で推移している。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

## 2. 果 樹

### (モモ)

#### (1) 灰星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月18日の巡回調査では、花腐れの発生ほ場率は14.3%で平年(21.8%)よりやや低かった。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

#### (2) 黒星病

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや早く推移している。

イ. 4月18日の巡回調査(越冬病斑調査)によると、発生量は平年並であった。

ウ. 4月23日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

#### (3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月18日の巡回調査(春型枝病斑調査)によると、発生ほ場率は0%で平年(13.6%)より低かった。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

#### (4) 褐さび病

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや早く推移している。

イ. 前年の発生量は平年並であり、伝染源の越冬量は平年並と考えられる。

#### (5) モモハモグリガ(第1世代成虫)

予報内容

発生量 並  
予報の根拠

ア. 4月17日の巡回調査（南部）では、発生ほ場率は0%で平年（1.4%）並であった。

イ. 予察ほ場のフェロモントラップによると、4月1～4半旬までの誘殺数は0頭で、平年（0.0頭）並であった。

ウ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察ほ場における越冬成虫の生存率は92.0%で平年（88.9%）並であった。

イ. 4月18日の巡回調査（南部）では、発生ほ場率は21.4%で平年（21.8%）並であった。

(7) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 早

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月4日と推測され、平年（4月14日）より早かった。

イ. 4月1～4半旬の誘殺数は92頭で平年（36.7頭）よりやや多かった。

ウ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 やや早

発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育はやや早く推移している。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 やや早

発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育はやや早く推移している。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

3. 野菜

(キュウリ、ナス、トマト、イチゴ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月16、17日の巡回調査によると、発生ほ場率はイチゴで45.5%と平年(35.5%)よりやや高く、トマトで50.0%と平年(51.3%)並であった。また、キュウリとナスでは発生を認めず、平年(キュウリ0%、ナス4.0%：10年間で1年のみ発生)並であった。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(イチゴ)

(1) うどんこ病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 4月16、17日の巡回調査によると、発生ほ場率は9.1%と平年(16.6%)より低かった。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(タマネギ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 4月16日の巡回調査によると、発生ほ場率は7.7%と平年(47.3%)より低かった。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(ナス、キュウリ)

(1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月17、18日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は263頭で、平年(279.5頭)並であった。

イ. 4月17日の巡回調査によると、ダイコンでは平年同様発生を認めず、発生ほ場率は平年(6.0%)並であった。

ウ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(2) コナガ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

#### 予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～4半旬のフェロモントラップの誘殺数は、33頭で、平年（32.6頭）並であった。
- イ. 4月17日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、平年（発生ほ場率：0%）並であった。
- ウ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

## 4. 花 き

### (キ ク)

#### (1) アブラムシ類

##### 予報内容

発生量 並

##### 予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は263頭で、平年（279.5頭）並であった。
- イ. 4月17日の巡回調査によると、発生を認めず、発生ほ場率は平年（11.5%）よりやや低かった。
- ウ. 4月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。  
アドレスは、 <https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

